

## 江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・1103 NO41

校長 伊波喜一

木枯らしの 風に踊りて 柿の葉の 遊びたわぶる 童達かな

校庭で子ども達が遊びに興じています。子どもは疲れ知らずです。起きている間は、あらん限りのエネルギーを一瞬に集中・発散させて遊んでいます。どこからそのエネルギーが湧いてくるのか・・・、羨ましいかぎりです。兼好法師は「今日はその事をなさんと思へど、あらぬ急ぎ先ず出で来て紛れ暮し、待つ人は障りありて、頼めぬ人は来たり。頼みたる方の事は違ひて、思ひ寄らぬ道ばかりは叶ひぬ」。(今日は予定していたことをしようと思っけていても、予定外の急用が出来て、それに取り紛れて一日を送り、待っている人は支障があつて来ず、当てにしない人が来たり、思いがけない方面のことがうまくいったりする。かように、世の中は思い通りにいかないのだ)と。大人になると、世間のしきたりごとから離れて生きることが難しくなります。その点、子ども達はしきたりに縛られることがありません。時には角と角をぶつけ痛い思いをしますが、それも成長の証。やがて、人と人との程良い距離感をつかんでゆきます。子ども達のゆるやかな育ちを、長い目で見ていけたらステキです。